

2018年09月06日：平成30年第4回定例会（第2日）議事録

○丹下大輔議員 おはようございます。議席番号1番、権輿会の丹下大輔でございます。質疑に入ります前に、さきの7月に発災いたしました西日本豪雨災害、きょう、2カ月を迎えました。改めて豪雨災害で亡くなられた方々に対し、謹んで哀悼の意を表しますとともに、被害の大小かかわりませず、被災を受けられました方々に対し、心からお見舞いを申し上げます。また、本日午前3時8分ころに北海道胆振地方を震源とする震度6強の地震が発生いたしました。被害を受けられました方々に対しまして、お見舞いを申し上げますとともに、一刻も早い復旧、また生活再建をお祈り申し上げます次第でございます。

それでは、通告に従いまして、議案第84号「平成30年度今治市一般会計補正予算（第3号）」、歳出7款1項2目ブランド推進事業費について質疑いたします。

本事業は、本市の地域資源や観光資源を包括し、今治ブランドを構築、発信することで本市の認知度やイメージを高めようとするものと説明がございましたが、まず1点目に、ブランド推進事業の趣旨と目的をお聞かせください。

2点目に、本事業の取り組み内容についてお示しください。また、議案書では、今治ブランド推進業務委託料として3,250万円計上されておりますが、具体的な業務委託先と選定方法、加えて、詳細な業務委託料をお聞かせください。あわせて、それぞれの費用における算出根拠もお聞かせ願います。

3点目に、今治ブランド戦略会議の設置についてお尋ねいたします。今治ブランド戦略会議の目的と役割をお示しください。また、構成メンバーとその選定理由についてもお聞かせ願います。

4点目に、本議案におけるブランド推進事業費の事業期間は単年度か、それとも複数年度にわたる事業になるのか、これらの事業実施期間についてもお聞かせください。あわせて、複数年度にわたる場合、総事業費をどの程度想定されているのかお聞かせ願います。

5点目に、本事業を推進し、ブランド構築と発信を展開する上でターゲットとして想定するマーケットの設定についてお聞かせください。

6点目に、今治ブランドのイメージ構築として、ロゴデザインやキャッチコピーの制作とございますが、ブランドの品質確保の面からも使用と運用方法はもちろん検討されていると考えますけれども、いわゆるクオリティーコントロールはどのように設定されるのか、お聞かせ願います。

7点目として、本事業により本市の商工業者にとりまして、どのようなメリットが生まれるのか。当然のことながら、具体的な数値目標を設定されておられると存じますが、これらの定量的検証を可能とする具体的な数値目標をお示しく

ださい。

最後の8点目として、多様な課題を抱える本市でございますが、ブランド推進事業が所期の目的を達成すれば本市にとりましてどのような課題が解決されるのか、政策効果についてお聞かせ願います。

以上、8点につきまして明快なるご答弁、お願いを申し上げます。

○越智 豊議長 答弁を求めます。

○菅 良二市長 おはようございます。けさ6時にテレビをつけますと、北海道で大変なことが起きた。まだ全容は明らかになっておりませんが、どうぞ少なくとも人命に被害がないよう祈るばかりでございます。

そして、きょうは今治西、北、南高等学校の運動会といったことを聞いておりました、私、ご案内のあった今治南高等学校に行ってきました。元気いっぱい、まさに青春の発露といいますか、大きな気をいただいた。頑張っています。あの高校生たちがやがて一度は社会に飛び立ち、そしてまたぜひとも今治の地に目を向けてくれたらと、そんな思いを込めながらこちらへ帰ってまいりました。

ところで、丹下議員ご質疑の議案第84号「平成30年度今治市一般会計補正予算（第3号）」の1番目、歳出7款1項2目ブランド推進事業費についてのうち、1点目と8点目に関しまして私からお答えさせていただきます。

まず、1点目の事業の趣旨と目的についてでございます。本市は、近年さまざまな形でマスコミにも取り上げられ、現在その知名度は抜群であります。必ずしもよいイメージばかりではございません。そこで、この知名度をプラス思考で生かし、今治市のイメージの向上を図ってまいりたいと考えております。ご承知のとおり、本市には今治タオルを初めとして、サイクリングやしまなみ海道の景観、大山祇神社や村上海賊に代表される歴史文化遺産等、世界を相手にできる多数のすばらしい地域資源を有しておりますが、現在はそれぞれが独自にプロモーションを行っており、今治市全体のイメージには至っておりません。そこで、それぞれの資源を1つのストーリーとして取りまとめ、それをシンプルで明快なマスターブランドとして、わかりやすく丁寧に発信することで今治市の認知度や求心力を高めようという取り組みでございます。

次に、8点目の事業の政策効果についてでございます。本市におきましても、人口減少に伴う若年世代の市外流出が進み、徐々にまちの活力が失われつつあります。これは、まちなぎわいや活力を創出する若者に対し、若者を引きつけるまちの魅力や、このまちに住む価値をわかりやすく伝えられていないことが大きな要因の1つであると思います。私は地域のブランドづくりの本質は、市民の皆さんや地元企業が同じ問題意識や危機感を持ち、力を合わせてみずから変

化していくことであると考えております。そこで、今回、皆さんご存じ株式会社ユニクロや株式会社セブン-イレブン・ジャパン、楽天株式会社など数々の企業ブランディングを手がけたクリエイティブディレクターの、あの今治タオルでおなじみ佐藤可士和氏の力をおかりして、今治市のイメージを世界へ発信することで、またこの事業を通して、若年世代へ今治市の魅力を丁寧に関わりやすく伝えることで、今治市に関心を持ち、今治市の価値を理解し、みずから訪れ、まちの活力創出につながるムーブメントが各所で起こることを期待するものでございます。

その他のご質疑につきましては、関係理事者からお答えさせていただきますので、よろしく願いいたします。

○安井 孝産業部長 丹下議員ご質疑のブランド推進事業費に関する2点目から7点目についてお答えさせていただきます。

まず、2点目の事業の取り組み内容と業務委託先及び選定方法並びに費用算出根拠についてでございます。今年度の事業の取り組み内容といたしましては、今治市の地域イメージをつくり、それを地域に根づかせ、効果的に発信するための手段としてロゴデザインやキャッチコピーの制作及び商標出願、ウェブサイトの制作等とあわせてメディアへのプロモーションを通して、今治ブランドの認知度を高める取り組みを進め、それを見える化するため、3月に今治ウィークのような形のトライアルイベントを実施したいと考えております。また、次年度以降の取り組みといたしましては、今年度作成するロゴやキャッチコピーを活用して、着地型旅行商品の造成及び販売、企画商品の開発などを進める予定としております。

次に、業務委託先及び選定方法並びに費用算出根拠につきましては、まず、このブランド事業で重要なことは、この事業を通し、つくり出すものが世界で通用するクオリティーがあること、かつ世界へ発信する力とそれを共有できる人に委託できるかが重要になると考えています。今治タオルの場合も、つくり手の技術の高さと誇りを1つの形として発信したことが成功の要因であり、クオリティーの高いプロモーションを継続した成果が今の知名度につながっています。そこで、業務委託先は、この今治タオルをJAPANブランドへ押し上げたクリエイティブディレクターの佐藤可士和氏にお願いしたいと考えております。委託料3,250万円の内訳につきましては、今治ブランド戦略会議における事業全体のマネジメント費として999万円、ロゴデザインやキャッチコピーの制作費1,165万5,000円、ウェブサイトの制作費540万円、メディアへのプロモーション費545万4,000円となっております。委託料はそれぞれ業者見積もりで積算しており、財源は地方創生推進交付金を予定しております。

次に、3点目の「今治ブランド戦略会議」の目的と役割、構成メンバーの選定理由についてでございます。今治ブランド戦略会議は、佐藤可士和氏監修のもと、ブランドイメージの活用方法や発信方法の検討を中心にブランドの基準づくり、事業全体の進行管理等を担う組織として、ことし10月に設立を予定しております。構成メンバーは市長を会長とし、今治タオルや食、サイクリング、着地型観光などに関するキーマンになる方々を予定しており、それぞれの活動を通して今治市の魅力を発信していただける団体、個人へ依頼するものでございます。なお、今後、事業の進捗に合わせ、メンバーを変更していくことも想定しています。

次に、4点目の事業の実施期間と総事業費についてでございます。事業の実施期間は東京オリンピック・パラリンピックや日本遺産サミットが本市で開催される2020年を1つの区切りとし、インバウンドも含め、中四国への観光客を最大化させる動機づけにしたいと考えています。単年度ごとの事業予算となりますが、2年目以降の事業費につきましては、前述の戦略会議において全体計画を策定する中で精査してまいりたいと考えております。

次に、5点目の事業の対象についてでございます。現状において、本市が有する資源と魅力の発信が必ずしも若者の地元企業への就職やまちの活力創出につながっていないという課題があることから、国内外を問わず、情報の拡散力を持った若年世代を主なターゲットとするものでございます。

次に、6点目のクオリティーコントロールの設定についてでございます。このブランド事業を進める上で、今治市の地域イメージを発信するために佐藤可士和氏に総合監修をお願いすることで、戦略を持ったデザインのあり方、見せ方、プロモーションの手法やタイミングを総合的にコントロールいたします。先ほど申し上げました世界で通用するクオリティーが確保されているかどうか、ブランド基準に適合しているかどうか等を管理することも必要な業務でございます。

最後に、事業の数値目標についてでございます。現在、地方創生推進交付金に係る新たな地域再生計画の策定を進めているところでございます。この計画のKPI、いわゆる数値目標として、本市のイメージを効果的に発信することで持続的な交流人口の拡大が図られるものとし、現状の観光入込客数281万人を年間2万8,000人ずつ、外国人宿泊者数2万900人を年間300人ずつ増加させることを目指し、指標として設定する予定としております。

以上でございます。

○越智 豊議長 以上で答弁は終わりました。

再質疑はありませんか。

○丹下大輔議員 議長。

○越智 豊議長 丹下大輔議員。

○丹下大輔議員 今治ブランド推進事業、私の8項目から成る質疑に対しまして答弁を賜りました。この事業における概観、また概要、そして目指すべき方向性というのは私なりに確認させていただきました。これから地球規模の地域間競争、もう国内だけではなくて地球規模の、グローバルゼーション、IT革命という中でこの地域間競争を勝ち抜くためには、この日本発とも言える自治体発のブランドづくりというのは日本初であるということを伺ってございます。ぜひ、このブランド推進、エンジンとして地域間競争を勝ち、本市に若年層が帰ってきて、あらゆる地域経済の推進につながりますことを念じまして、私の質疑を終わります。

以上です。

○越智 豊議長 再質疑なしと認めます。

以上で丹下大輔議員の質疑を終わります。